

年間手術件数増加がアウトカムに与える影響度

	手術件数増加の効果			
	傾き(β_1)	95%信頼区間		P値
		下限	上限	
1カテゴリ増加	0.09%	0.03%	0.15%	0.003

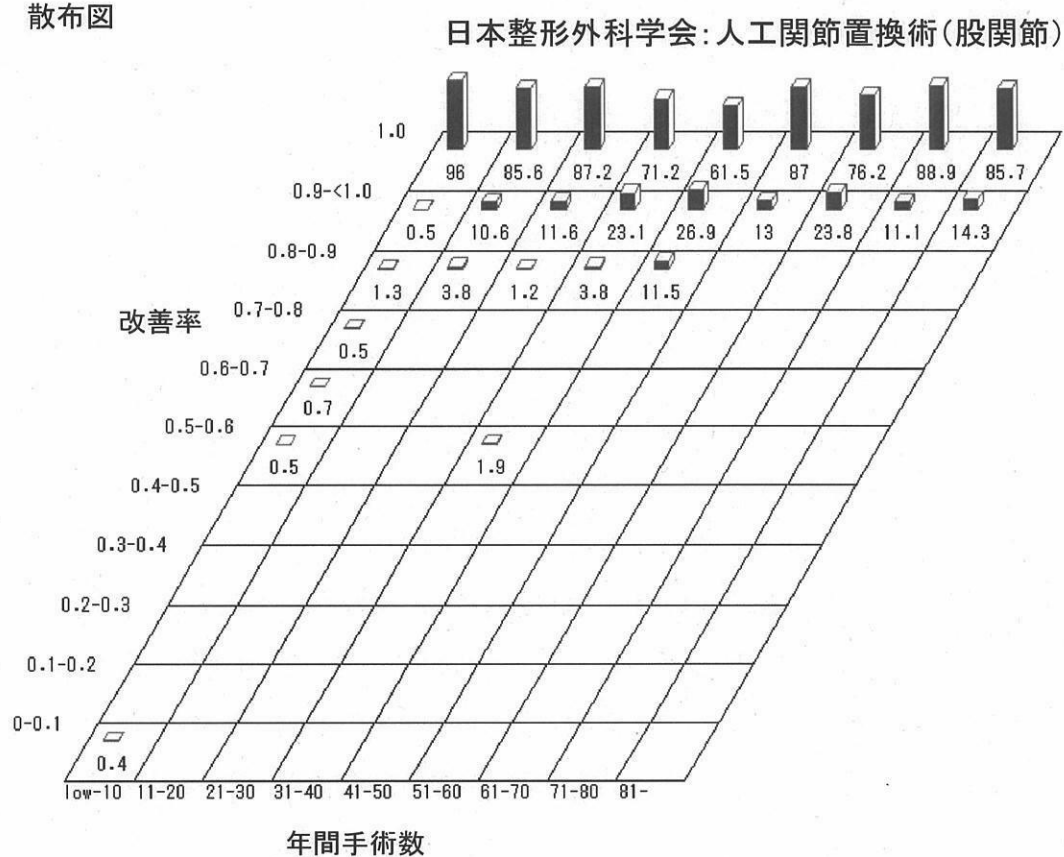
上の結果から、例えば手術件数 50 件の増加に対する機能改善率の上昇度合いは $0.09 \times 5 = 0.45\%$ (95%信頼区間: $0.15\% - 0.75\%$) となる。この結果は、統計学的には有意水準 5% で有意差が認められるが、その効果の大きさがわずか 0.5% 程度であることに注意しなければならない。つまり、日本胸部外科学会における冠動脈・大動脈バイパス移植術の場合と同様、統計学的な有意差よりも手術件数増加の効果の大きさ自体を臨床的に判断する必要がある。前頁の散布図と改善率の推移から考えると、手術件数が少なくとも改善率は良好であり(例えば、年間手術件数が 10 件以下であっても 95% の施設で改善率 100%)、その平均値は手術件数の大小にかかわらず 98% 前後で推移している。したがって、年間手術件数増加が改善率上昇に与える影響度は極めてわずかといえる。

人工関節置換術(股関節)

基本統計量

- 調査施設数:1,151
有効回答施設数:1,150, 手術実施施設数:879
- 総手術件数:17,260
- 1施設あたりの手術件数
平均値:15.0, 中央値:5, 最小値・最大値:0-380
- 改善率の平均値:0.98

散布図



機能改善率の平均値の推移

	年間手術件数								
	-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51-60	61-70	71-80	81-
施設数	480	158	85	52	25	21	21	9	28
改善率	0.982	0.987	0.993	0.973	0.971	0.997	0.996	0.999	0.999